慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	白井厚著 ウィリアム・ゴドウィン研究
Sub Title	
Author	飯田, 裕康
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1964
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.57, No.11 (1964. 11) ,p.940(84)-
JaLC DOI	10.14991/001.19641101-0084
Abstract	
Notes	新刊紹介
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19641101-0084

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

経済学において正統な立場におかれていないことは事実である。経済学が科学であり、論理性を重んじる以上、これは当然であろう。しかし、反面、経済思想が常に歴史・社会の非合理な諸要因から影響されていることを考えるならば、制度学派的な思考がたえず論理的な正統派の対立者として存在することもまた事実であろう。この意味で、この書を読み、富に関する制度と経済学の関連を、学史的に理解しておくことは有益であろう。（原書房・A5・本文四二三頁・六〇〇円）

―松浦　保―

白井　厚著
『ウィリアム・ゴドウィン研究』

我が国における英国の近代思想の研究が本格的に開始されたのは戦後のことである。現在まで、市民革命を中心とした社会・経済史的研究を背景とした多くの思想史研究の成果が世に問われ、それはわが経済学史学界の一大潮流を形成するに至っている。思想史研究それ自体はわが国においては戦後盛んになった学問であるが、最近欧米での history of ideas という研究領域がもつ重要性が確認されつつある時期でもあり、わが国思想史研究の国際的意義も益々強まっているものといえよう。こうしたときに、白井厚氏の多年に渉る研究の成果が世に問われたことの意義は大きい。

ウィリアム・ゴドウィンの名は、わが国ではすでに戦前から紹介されており、主著「政治的正義」の翻訳も行われている。しかし、その本格的研究は戦後にはじめられた。社会思想といっても、あらゆる思想領域を覆うものとして考えるなら、ある個人をとりあげることは、その人物の一面、乃至は思想の一面が――しばしば本質的側面と称されて――とりあげられることになりかねない。過去において思想史のこうした素朴な方法は支配的であったし、それはそれとしての役割も果たしていた。しかし社会経済史学が急速に発展している現在においては、かかる把握の仕方は許され難い。著者は、このような傾向を十分認識され、できる限り正確な思想家ゴドウィン像をうちたてようと努力されている。ゴドウィンの内的思考の展開と、その外的拡延を軸に描かれる評伝にその点は明白にうかがえるところである。しかも、時代精神の潮流というゴドウィンの現実的基盤を重要視されている点、本書の第Ⅲ章の分析等々からそのことは一層あきらかなところである。本書がこの第Ⅲ章を有していることは思想史の方法の深化という点からも意義深いのではなかろうか。

ゴドウィンの思想活動は、哲学・経済学・文学・教育学等の多方面にわたり、夫人マリー・ウォルストンクラフトとともに社会運動家であり、本書はそれら彼の多方面の活動を可能なかぎり吸収している。著書は、このような作業の前提として、詳細な文献考証と時代考証とを行っており、巻頭の年表・家系図、巻末の文献目録等は、今後この分野の研究者にとって大いに役立つものとなるであろう。今日、国家独占資本主義あるいは、社会主義から共産主義へという過渡的時代にあっては、現実の人間のあり方に厳しく、そこから完全なる発展を志向したゴドウィンの精神は更めて確認される必要を有しているといえよう。（未来社・一九六四年八月刊・A5・三四二十五五頁・一二〇〇円）―飯田　裕康―